

ときめき

No.446
2022 1-21

コンパクトスマート水田園芸経営モデル研究について

スマート農業技術を活用し、中山間地域など労働力確保が困難な地域においても、夫婦二人程度の労働力で1,000万円^{*1}の農業収入を確保できる営農モデルを構築します。

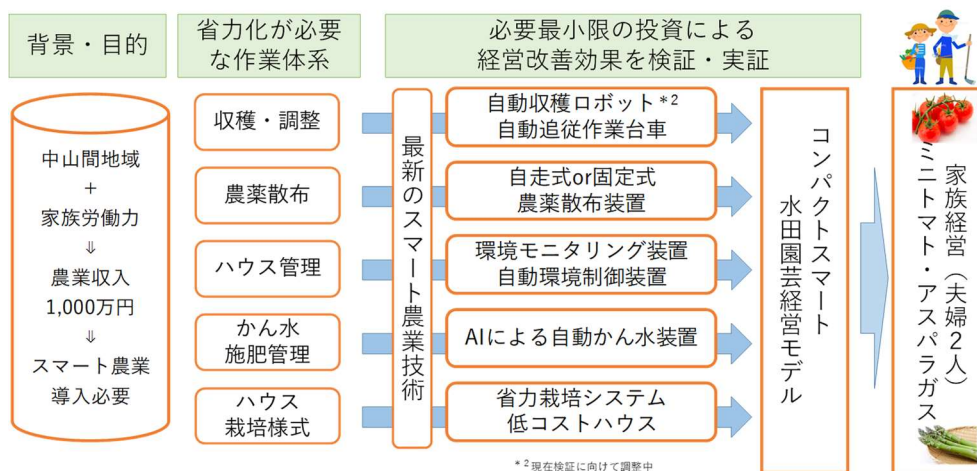
農地集積による大規模な営農に限界がある中山間地域等において、施設園芸は比較的小面積で高い収益が期待できるものの、収穫・管理等の労力確保に大きな課題があります。

一方、近年、急速に進展するスマート農業技術（ICT、ロボット等）は、高齢化が進み、農業従事者の減少が続く「島根農業」にとって、農作業の省力化に繋がる有効な技術として期待されています。

現在、島根県農業技術センターでは、施設園芸（ミニトマト、アスパラガス）でスマート農業技術を活用し、中山間地域など労働力確保が困難な地域においても、家族労働力（夫婦二人程度を想定）で、販売額1,000万円^{*1}を実現する営農モデルの構築に取り組んでいます。

研究期間中は、現在実用化されているスマート農業技術の省力性やコストなどの経営改善効果を検証し、必要最小限の投資で販売額1,000万円の実現が可能な営農モデルの構築と実証を進めます（下図参照）。

また、民間会社との共同研究を積極的に進め、より島根県の実態にあったスマート農業技術を開発、迅速な導入を図るとともに、成果は順次発信し、関係機関へ情報をお繋ぎしていきます。 ^{*1} 他産業並みの所得（400万円）を確保するには少なくとも1,000万円程度の販売額が必要



問い合わせ先：栽培研究部水田園芸科（担当:金森健一）

TEL 0853-22-6830

E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp